

学校関係者評価（2018年度）

1 教育方針

校訓である「立志」「誠実」「努力」の精神を基盤として、秩序立てて事に当たる合理的な資質、物事に熟意をもって主体的に挑戦し貫徹する姿勢、他者に共感し思いやることのできる包容力ある態度を培い、実社会への応用を視野に入れた「確かな学力」と「豊かな人間性」とを備えた人材を養う。そして、未来を切り拓く志と志願し現れる課題を発見し、解決に向け、行動できる「考えの人」を育てる。

2 本年度の重点目標

- 信頼できる学校を目指し、基礎的な知識及び技能の確実な習得と定着を図る。また魅力ある特色類型とそのための科目開発を行い、より一層学力の向上を推進する。
- 人間理解に基づいた指導を通して規律ある生活態度を育成し、善悪の判断力を培い、生活習慣の確立とマナー向上を目指す。
- また家庭や地域との連携を図り、きめ細かく丁寧な教育実践を展開する。
- 高校生ふるさと貢献事業、就業体験事業を推進し、幼稚園・小学校・中学校・社会福祉施設・社会福祉協議会との連携を図り、地域と共に育てる「地域共育」を実践する。
- 学校評議員制度及び学校関係者評価を活用して、学校評価の一層の充実を図り、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 研修を深め、教職員としての専門性・実践的指導力を磨き、社会の変化に対応した教育観を養うとともに、互いを認め励まし合う明るく爽やかな職場づくりを実行する。

3 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

評価項目は概ね妥当である。様々な観点からの評価を有効活用してほしい。

4 学校関係者による総合評価

- 1) 学年が上がるにしたがって高評価なのは特にすばらしい。保護者も高評価である。
- 2) リーガルマインドの考え方が生徒や保護者に伝わっていることがわかる。
- 3) 教育活動の評価が昨年より高いことは評価できる。
- 4) 学習の環境・施設・設備について生徒・保護者の評価が不十分で一層の改善が必要である。
- 5) 奉仕活動や体験活動の推進について生徒は昨年より評価が上がっているが保護者に知られていないのが残念である。
- 6) 生徒は学習にしっかりと取り組んでいる。生徒会活動や部活動も活発であることは素晴らしい。

学校自己評価結果（4・・・よく当てはまる 3・・・どちらかといえば当てはまる 2・・・どちらかといえば当てはまらない 1・・・まったく当てはまらない）

評価の観点	評価項目	取組内容	達成状況	2018/2017	成果と課題（改善の方策）	学校関係者評価
学習指導	基礎・基本の徹底	1 「年間指導計画」「シラバス」等を作成し学習目標を明確化し、生徒が学習目標を設定しやすいうにする。	2.8	3.2	「年間指導計画」「シラバス」等を作成し学習目標を明確化し、生徒が学習目標を設定しやすいうに工夫した。週末課題や定期考査ごとの課題など、各教科で工夫して実施した。学習習慣の定着が見られない生徒には個別に指名補習を行いきめ細やかに対応した。研究開発広報部の研究大会時に研究授業や公開授業を実施したが、このような取り組みを年間とおして増やし、よりいっそう主体的で対話的で深い学びの授業を目指さねばならない。新学期指導要領に向けて、求められる授業の在り方を一層研究しなければならない。	項目2、3における高い評価、また「入学して良かった」という3年生の回答が高い点は評価できる。教員の自己評価が良いのは、現状は満足していないと表れているという肯定的な見方ができる。
		2 学力を的確に把握し、課題を適切に与えるなど学習習慣の定着を図る指導をすすめる。	3.0	3.3		
	学習意欲の向上	3 わかる授業、達成感や成就感が得られる授業を行う。	3.1	3.4		
		4 進路に関する啓蒙的な体験活動に参加することや進路相談会・講演会等を通して学習の動機付けをおこなう。	3.1	3.1		
	個に応じた指導の充実	5 能力・適性・進路等に応じた類型、選択科目を工夫する。	3.0	3.0		
生徒指導	人間的なふれあいにもとづく生徒指導	6 行事や部活動を通して自主・自立の精神を養う。	3.0	3.2	朝服の正しい着用、あいさつの励行、登下校を促す学校生活におけるマナーの向上、時間厳守で行動することを継続的に指導していくことが必要である。各学年とも学年集会などを通して基本的な生活習慣を身につけることの重要性を理解させる指導を行っている。特に第二学年では修学旅行での実践に活かすことができた。登下校のマナー、スマホ等の使用法、ネットトラブルについての指導を一層充実させる。	「須磨系高校生は明るく元気でである」という項目で、今年も70%に近くであり、先生方の取り組みを評価していることが伺える。
		7 校則・マナー・時間を守るなど基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を行う。	3.1	3.4		
特別活動	特別活動の充実	8 行事の精選を行い、行事内容を充実させる。	2.7	2.8	行事内容の継承と精選を今後さらに検討を重ねたい。教師主導でなく、生徒による自主的な運営が行える下地作りをさらに力を入れていきたい。	
課題教育	保健・安全教育	10 健康生活に必要な知識を理解・体得させ、健康管理に心掛ける意欲を育成する。	2.7	3.2	「保健ジャーナル」（生徒会・保健委員会発行）を通じ、生徒・教師に衛生・健康生活の普及に努めた。インフルエンザ対策にも、生徒会・放送部が主体的に取り組み、保健・衛生意識の向上に成果をあげた。	定期的に発行する保健ジャーナルをHPにも掲載し、意識の向上を進めていることは評価できる。担任と教科担任、部活の顧問等、多岐にアプローチしていることが伺える。今後ともいっそう生徒の安全・健康面に注意を払ってほしい。
		11 防災教育や防災訓練を通して防災に関する意識や知識・技能を定着させる。	2.9	2.9	防災教育・心臓蘇生講習会の機会を設け、生徒の安全を守るという意識を推進するよう努めた。	
	人権教育	12 人権教育を中心とした講演会やホームルーム活動等を活用し、人権意識を高める。	2.7	2.9	すべての教科・科目を通して人権教育の姿勢をさらに強化していきたい。教職員研修として取り組んだアサーションの授業をさらに高め必要がある。	
		13 「クローン作戦」「ワークキャンプ」などのボランティア活動を通して「地域貢献事業」を活性化させる。	2.8	3.2	ワークキャンプには20名以上の生徒が参加した。地域の人々もある程度巻き込んだが、更に増やす必要がある。	
	体験活動	14 「ふれあい看護」「ふれあい保育」などの体験的学習を通して「就業体験事業」を活性化させる。	2.7	3.0	興味のある生徒をある程度参加させることができたが、より多くの生徒に参加させるようにする。	
		15 読書の推進、啓蒙を図ると同時に、図書館および図書館の利用の推進について指導する。	2.5	2.2	閲覧室の整備に努めているが、生徒の利用は依然低調である。教科指導などあらゆる機会をとらえて啓蒙を進めるとともに、1-2ヶ月の「読書週間」で取り組んでくれた成果を活かして、図書館改革に取り組む。	
図書指導	情報教育	16 人権尊重の視点に立ち、情報を主体的に収集、選択し、有効に活用したり、発信・伝達する能力を育成する。	2.7	2.9	教科情報の授業を通して、効果的なコミュニケーションの方法を修得させるとともに、情報の発信、発信時に配慮すべき事項を理解させるよう努めた。リテラシーについての教育をいっそう充実させる。	図書館の蔵書の充実と有効利用については、今後とも力を入れて改善させてほしい。情報教育については、生徒指導上の課題としても取り上げてほしい。
		17 個別面談・IR活動や進路説明会などを通して、将来の職業につながらる進路指導を醸成する。	2.9	3.4	できるだけ早い時期から具体的な進路目標を設定させ、実現のためにはどのような取り組みが必要かを認識させ、実行させる。と同時に、引き続き個々の進路希望の実現を図るための助言や支援を組織的に展開できるよう精力的に取り組む。	
進路指導	進路指導の充実	18 生徒・保護者の進路希望を把握し、進路実現のために適切な助言・指導等を行う。	3.2	3.4		1年生からしっかりと進路意識を持たせ、学習習慣を定立させ、計画的に進路について学習させてほしい。
		19 職員間の連携・協力体制を整え、生徒指導方針に対する共通理解体制の確立	2.7	2.9	生徒指導における事象の多様化に対応して、特別支援・いじめ対応チームを積極的に活用した。教職員の情報共有、意思統一に向け関係機関と連携しながら研修会を開催し、学校全体の対応力を一層強化する。	こころの教育を充実させることが重要視されている。キャリアカウンセラーの活用などを通じて生徒理解をさらに進めてほしい。
学校運営全般	共通理解にもとづく生徒指導体制の確立	20 生徒の内面理解を図るための、教育相談事業を円滑に実施する。	2.8	3.2	特別支援教育の充実のためにも、コーディネータや学年保健担当や担任が対象生徒・保護者との接し方・心得などを、キャリアカウンセラーの指導・助言を基に実践しており、効果が見られる。	
		21 3年間の計画のもと、進路指導部と各学年が連携し、個人面談・学年集会・保護者会等を通して進路指導を推進する。	2.7	2.9	IR活動や進路相談会などを通して個々のキャリアプランの創造や職業観、勤労観、進路意識を醸成する。また、学年と進路指導部が模試結果等の情報を共有検討し、課題を見つけ解決策を探る作業が必要である。今後求められる「考える力」の醸成に真摯に取り組んでいきたい。	先生方の個々の生徒に対する努力の成果が伺われる。更なる充実が求められる評価になっている。
	組織的な進路指導の推進	22 各部と学年間の連携を図り、分掌組織の活性化を図る。	2.6	2.7		
		23 学校評価等を活用し、各部・学年の具体的な取り組みと成果・課題の点検を行い、学校運営のステップアップを推進する。	2.5	2.7	各部・学年の具体的な取り組みや成果・課題などはほぼ達成できているように思うが、評価に表れていない点が課題である。学校評価を活用し、各部署において課題解決に向けた取り組みを行ってほしい。	新しい学習指導要領・入試改革などを控え、強い危機意識を持っていることが伺える。一連の改革に対して、学校としてどのように取り組むか、課題意識の共有と協働性にもまして必要になってくる。積極的に研修を推進し、学んだ知見を共有してほしい。
	情報システムの整備	24 校内LANの活用により、校務の効率化を図るとともに、情報セキュリティを向上させ、個人情報保護の確保を図る。	3.0	3.2	校内webの活用をさらに推進していく。教職員の研修の機会をさらに充実していく。	
		部活動の充実	25 部活動を活性化するとともに、学習と部活動の両立を目指す意識を高める。	2.7	3.1	運動部の加入率が高いが、文化部の加入は低い。文化部の活動を活発にしたい。また、部活動に取り組む生徒の健康・安全と家庭学習時間の確保を図るため、「いきいき運動部活動（4訂版）」の趣旨を徹底させる。
開かれた学校づくり	26 オープンハイスクールや学校説明会、保護者会・学年通信・学校ホームページ等を通して保護者と連携する。		2.8	3.3	オープンハイスクールや学校説明会、校外における学校説明広報や中学校訪問の機会等を活かして、本校への進学を希望する中学生や保護者に、本校の活き活きとした活動ぶりを知ってもらえた点は、大変好評であった。	積極的な広報によって、「イオ」の特色類型等の教育活動への理解が進み、多くの中学生やその保護者がオープンハイスクールや学校説明会に参加したことは評価できる。HPの更新も活発であり、今後とも本校での学びを生徒、保護者、地域に発信してほしい。
	27 P・T・A・学校評議員・地域住民の学校行事などへの参加協力により、地域と共に生徒を育成する。	2.7	3.0	学校ホームページを頻繁に更新して学校の様子を発信することを心掛け、PTAによる連絡網メールの設置により、学校の様子やPTA活動等の情報をこまめに発信した。今後も継続して情報発信に努めていきたい。		
危機管理体制の確立	危機管理体制の確立	28 避難訓練、総合的な学習の時間の活用等を通して、危機管理の意識を高め、避難所設置を含めた二次的に対応を想定した危機管理マニュアルの作成を通して、不測の事態に備えている。	2.6	2.7		教職員が一つになって取り組まれた成果であると思う。
		29 生徒の学習力向上と指導力の向上を目指し、授業研究や研修等を充実させる。	2.6	2.8	「イオ」の特色類型の導入に伴い、1年生は総合的な学習の時間において「イオ」の「基礎」として全員で取り組んでいる。この授業を通して、法的思考力や判断力等の身育を育成することを最優先の課題とした。また、学校に求められる教育課題や事業も多く従事時間が増え忙かしている現状がある。ゆとりをもった職場環境づくりを管理職を中心にいっそう取り組む必要がある。	新しいことに取り組むことは困難が伴うが、健康を損なわない程度において推進してほしい。今年度、特色類型の学びを1年生全員に広げようとしたことは高く評価できる。多くの教員が取り組むことにより、成果の共有と負担感が軽減につながると思う。
教職員の資質向上	教職員の資質向上	30 日々の教育活動における課題や悩みについて、教職員が協力しあえる職場の体制をつくる。	2.6	2.9		